

# へぐり<sup>こ</sup>CO育てネットの思い

代表：赤松 邦子

1996年5月、平群町の母子保健事業として就園前の育児サークル「ハムスターズファミリー」がつけられました。これにボランティアとして関わった赤松が、参加した母親達の中からリーダーを募って「ねずみっこママ」と称し、保健師さん達と連携しながら運営してきました。私たちはパワフルに活動を楽しみ、子どもを媒介にしたママ友をすっかり越えた仲間になっていました。2年後「ハムスターズファミリー」の卒業を迎えましたが、子育てについては「親同士のつながり」は大切であろうし、子育て環境のありかたを共通認識しあう「学習の場」も欲しい、これからも「行政との連携」をしていくグループとして1998年3月、子育て支援グループとして「へぐりCO育てネット」を発足させました。「CO」は「子・個・己・COmmunity」を意味します。

私たちは、まず託児グループ「カンガルー・ママ」をつくりました。町内には託児システムが無く、町主催の趣味講座や子育て講演会さえ参加できないのが実情でした。そのことに疑問を持って「無いのなら、自分たちで作っちゃおう！」とゼロからの出発でした。有償システムを取った事も良かったのか「カンガルー・ママ」は動き出しました。要求の高い小学校参観日の託児は学校の協力を得てすぐに実現し、他市町村からも注目されています。スポーツに参加したい要求も高く、託児付きの「エアロビクス講座」を独自に開き、若いママ達に現在も好評です。町行政事業の託児依頼も増え、2005年度より町行政「子育てサポート事業」の委託を受けることになりました。

「こんなのがあればいいなあ、こんなことが嬉しいなあ。」と自分たちの感性と体験を活かして企画、実行します。乳幼児を育てる母親への直接的な支援が幸いしたのか町内でも周知されつつある中、歴代の「ねずみっこママ」を支援、「へぐり子育てのびのびプラン」の策定委員、町支援センター事業連携などを経て、県下でも「子育て支援事業」には注目されるグループになりました。

子育て環境に大きく影響を与えるであろう親自身の「出会う→気づく→支え合う→エンパワメント」の「親育ち」に焦点を当てています。人と人が助け合って温かい空気のある社会で生きる喜びをまず大人達が実感すること、そうすれば自らの課題に自らが気付いて自ら動く。子育てって、親自身の価値観を問われ続ける作業のような気がしています。自分たちの子育てへの思いを形にして、自分たちで子育て環境を整えていきます。「子育て」が「孤育て」にならないように気持ちを寄せ合い、「子どもと親の共育ち<sup>ともそだ</sup>」の機会をつくります。人は、人の中で育ちます。親も、子も・・・。